

1 趣旨

みやぎ森と緑の県民条例（平成31年3月23日公布）第27条の規定に基づき、令和5年度の施策の実施状況等について、議会に報告するとともに県民に公表するに当たり、概要を報告するもの。

2 政策推進の基本方向と12の取組

（1）政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

- 取組1 県産木材の生産流通改革
- 取組2 県産木材の需要創出とシェア拡大
- 取組3 持続可能な林業経営の推進

（2）政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

- 取組4 資源の循環利用を通じた森林の整備
- 取組5 多様性に富む健全な森林づくりの推進
- 取組6 自然災害に強い県土の保全対策

（3）政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

- 取組7 持続的成長をけん引する経営体や担い手の育成
- 取組8 地域・産業間の連携による地域産業の育成
- 取組9 新たな森林、林業・木材産業関連技術の開発・改良
- 取組10 森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成

（4）政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

- 取組11 海岸防災林の再生と特用林産物の復興
- 取組12 地域資源をフル活用した震災復興と発展

3 5つの重点プロジェクト

- （1）新たな素材需給システムと木材需要創出
～年間生産70万m³への挑戦～
- （2）主伐・再造林による資源の循環利用
- （3）経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保
- （4）地域・産業間連携による地域資源の活用
- （5）海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

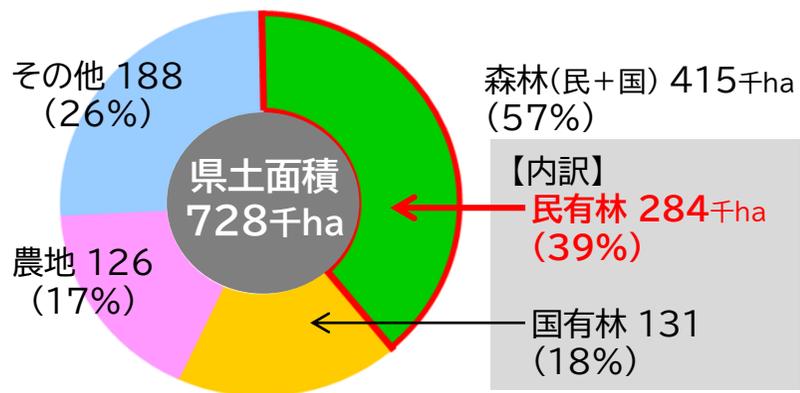
4 報告・公表のスケジュール

議会への報告：9月定例会に提出予定

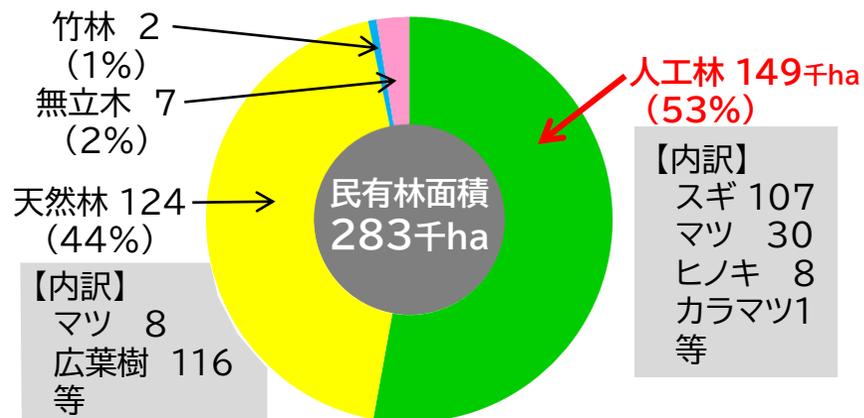
県民への公表：令和6年10月上旬に県ホームページに
掲載予定

宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(1) 宮城県の土地利用の現況



(2) 地域森林計画対象民有林の樹種別面積

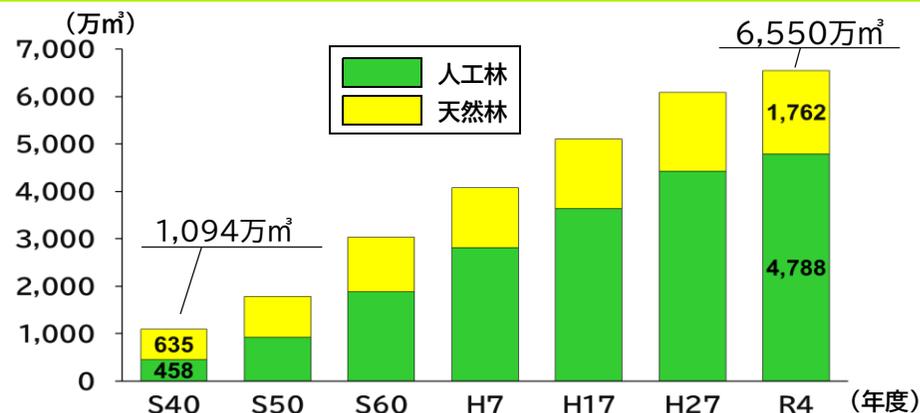


※地域森林計画対象民有林であるため、(1)の民有林面積と一致しない。



▲ 県内の森林

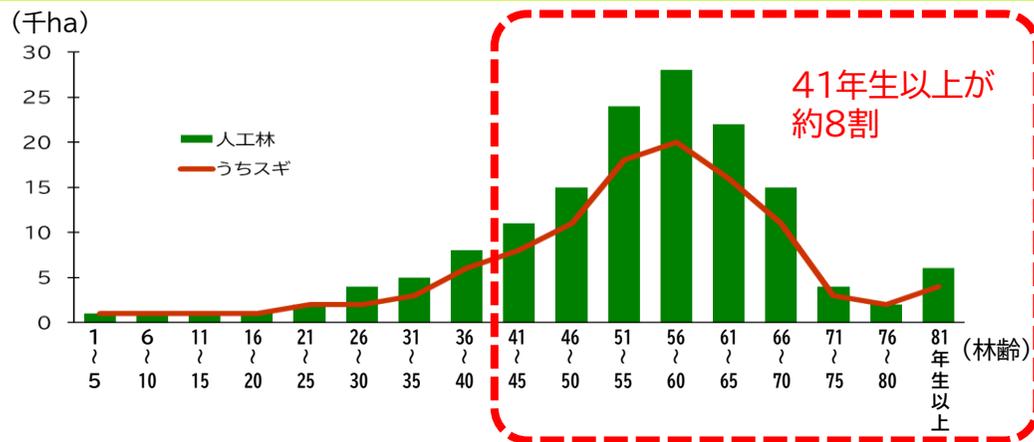
(3) 民有林の材積の推移



森林の材積は年々増加し、昭和40年の約6倍となっている。

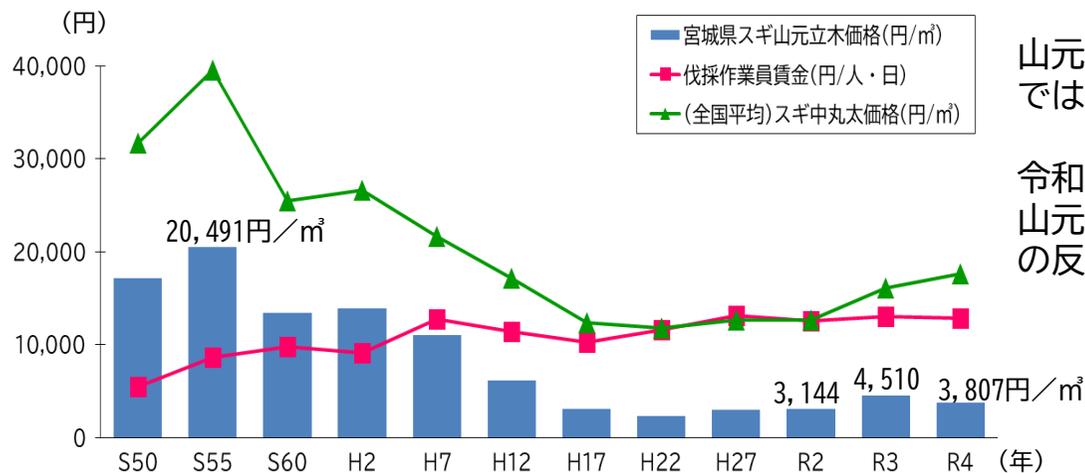
宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(4) 人工林（民有林）の林齢別面積



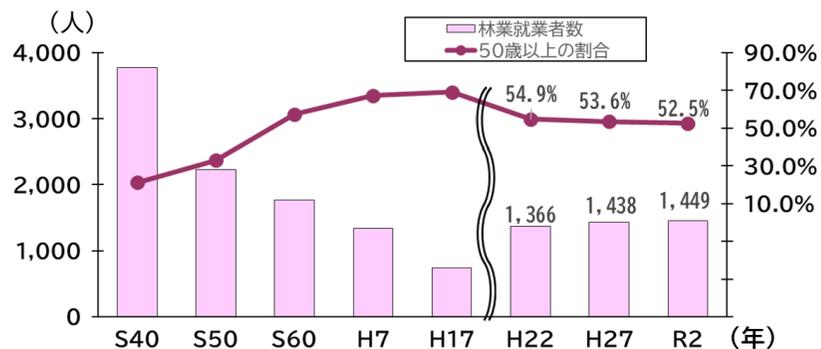
◀ 利用期を迎えたスギ人工林

(5) 山元立木価格の推移



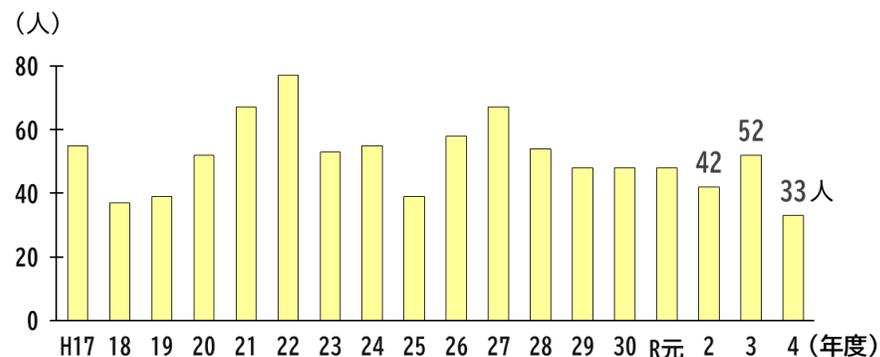
宮城県の森林、林業・木材産業の現状

(6) 林業就業者数の推移

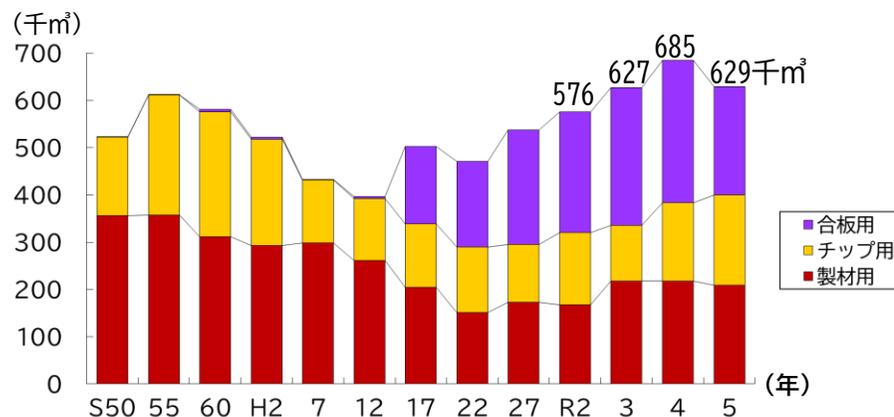


県内の林業就業者は横ばい傾向にあり、新規林業就業者は近年50人前後で推移している。

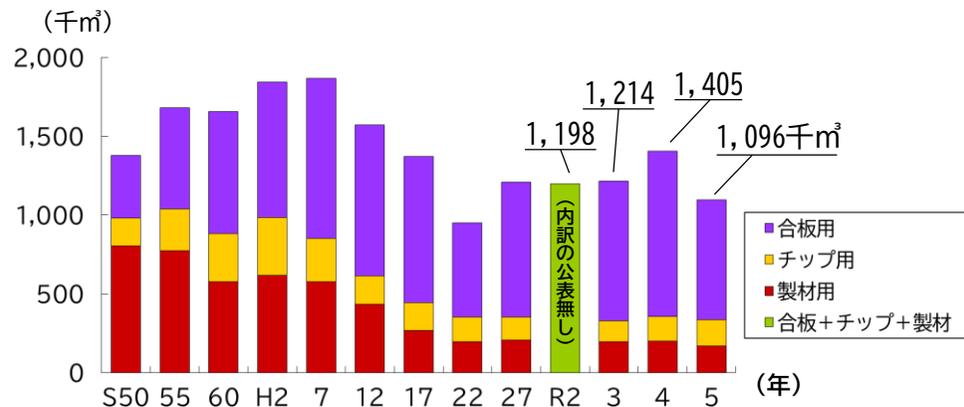
(7) 新規林業就業者数の推移



(8) 素材生産量



(9) 素材需要量



素材生産量は増加傾向にあるが、素材需要量の半分程度に留まっている。

■主な施策の実施状況

①素材生産性を向上させる基盤整備（取組1）

川上側の高性能林業機械導入や、川下側の合板・製材工場等の木材加工流通施設の整備を支援した。（本文3頁）



ハーベスタ



横架材加工機

②計画的な路網整備の推進（取組1）

効率的な林業経営や森林の適正な維持管理を図るため、林道・林業専用道の整備を行った。（本文3頁）



林道「登米東和線」(令和6年3月完工)

③県産木材の利用拡大（取組2）

CLTを活用した建築物や、県産材を使った木造住宅などの建築を支援した。（本文6～7頁）



CLTを活用し、建設された保育園

④森林経営管理制度の推進（取組3）

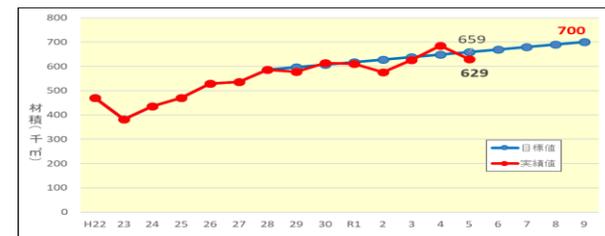
宮城県市町村森林経営管理サポートセンターと連携し、市町村への伴走型支援を拡充して実施した。（本文10頁）



市町村への伴走型支援

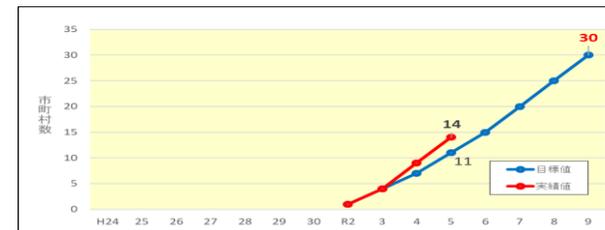
■主な目標指標の達成状況

◎素材生産量〔年間〕



素材生産量は、ウッドショックの反動で木材需要が減少したことから、前年度より減少したが、目標値を概ね達成している。

◎経営管理権集積計画策定市町村数〔累計〕



圏域推進会議等における市町村との情報共有に加え、林業普及指導員による伴走型支援により経営管理権集積計画を策定した市町村が増え、目標値を上回った。

■主な施策の実施状況

①効率的な間伐の推進による森林整備 (取組4)

森林の公益的機能の高度発揮のほか、旺盛な木材需要に応えるため、各種補助事業等により間伐実施を支援した。
(本文14頁)



間伐材の搬出

③松くい虫被害対策と松林景観の保全 (取組5)

特別名勝「松島」地域等の重要な松林を守るため各種防除対策を推進した。また、上陸困難な島しょ部の松林再生に向け、播種試験を実施した。
(本文19、21頁)



ドローンによる種子配合物の投下試験

②主伐・再造林の推進(取組4)

人工林伐採後の再造林を推進するとともに、造林コストの低減を図るため伐採と造林の一貫作業システムの普及などに取り組んだ。(本文15頁)



再造林された山林

④山地災害危険地区の計画的な整備 (取組6)

山地災害の未然防止や令和元年東日本台風等で被災した森林等の復旧のため、治山対策を計画的に推進した。
(本文22頁)



治山施設による山地災害の復旧

■主な目標指標の達成状況

◎植栽面積 [年間]



各種補助事業の活用等により再造林の推進を図り、目標値を概ね達成している。

◎松くい虫被害による枯損木量 [年間]



薬剤散布等の予防対策や、駆除対策の継続的な実施により、枯損木量は減少傾向にある。

◎山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率[累計]



着手率は40%台後半であり、目標値の8割程度で推移している。

■主な施策の実施状況

①就業環境の改善・人材育成の強化（取組7）

「みやぎ森林・林業未来創造機構」において経営基盤の強化や就業環境の向上に取り組んだほか、機構が運営するカレッジにおいて各種研修を実施した。（本文24頁）



カレッジ研修（テクノワーカーコース）

②特用林産物の収益力向上（取組8）

特用林産物の生産及び販売促進を図るため、パッケージデザインの作成支援や、ハタケシメジ簡易施設栽培の現地指導などを行った。（本文28頁）



簡易施設栽培の現地指導

③新たな技術の開発・改良（取組9）

花粉の少ないスギ苗木の生産拡大や、県産材による超厚合板及びきのこの栽培品種の開発等に係る試験研究を行った。（本文30頁）



無花粉スギの開発



超厚合板の強度性能試験

④県民理解の醸成（取組10）

森林インストラクターの養成や木育活動への支援を通じ、自然や森林について県民理解の醸成を図った。（本文33頁）



イベントでの木育活動

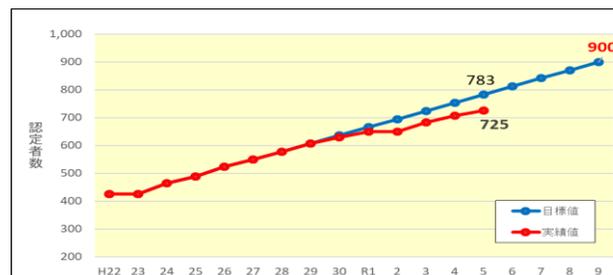
■主な目標指標の達成状況

◎新規林業就業者数〔年間〕



新規林業就業者数は、年間50人程度で近年推移しており、今後、賃金水準や労働環境の整備を進め、目標値に近づけることが必要である。

◎宮城県森林インストラクター認定者数〔累計〕



令和2年度に新型コロナウイルス感染防止対策として募集を中止した影響があるものの、概ね目標値を達成している。



■主な施策の実施状況

①復旧した海岸防災林の適切な維持管理・交流人口の拡大（取組11・取組12）

植栽が完了した海岸防災林において、下刈や本数調整伐等の保育管理を実施したほか、震災の教訓伝承と交流人口の拡大を図るため、バスツアー等により地域のにぎわいづくりを行った。（本文36、40頁）



保育施業の実施状況



バスツアーの開催

③特用林産物の新たな販路や需要の開拓（取組11）

特用林産振興会と連携し、料理教室や販売会の開催等を通じて、特用林産物のPR活動を行った。（本文37頁）



販売会の開催支援

②放射能汚染問題への対応（取組11）

特用林産物の出荷制限解除や生産拡大に向け、放射性物質検査の徹底や生産資材の購入支援等を行った。

（本文36、37頁）



非破壊検査機による放射性物質検査

④森林認証を核とした地域振興の推進（取組12）

持続可能な森林経営を目指し、森林認証の取得や、認証材の使用製品のPR活動などについて支援を行った。（本文40頁）



各種イベントでのPR活動

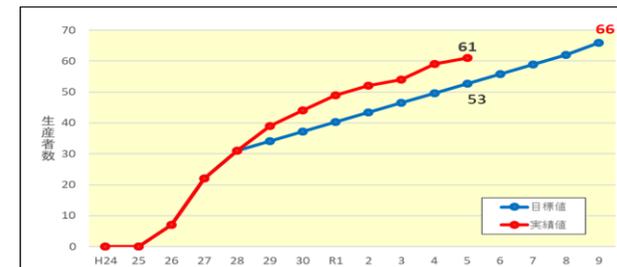
■主な目標指標の達成状況

◎海岸防災林の保育管理面積〔累計〕



計画的な本数調整伐の実施により、目標値を概ね達成した。

◎原木きのこ出荷制限(自粛)解除生産者数〔累計〕



栽培管理指導や原木購入支援により出荷制限解除を進めた結果、毎年生産者数が増加し、目標値を上回った。

5つの重点プロジェクト

プロジェクト1 新たな素材需給システムと木材需要創出

低コストで生産可能な新たな木質建材である「超厚合板」・「DLT」の開発や、設計・施工技術者の育成を支援したほか、CLT等を活用した建築物の建築支援などを行った。



超厚合板耐力壁試験

- ※ 超厚合板：単板を直交に積層接着した厚さ30mm以上の合板で、中・大規模建築物への活用を想定している。
- ※ D L T：製材を木ダボのみで接合した木質建材で、構造材や内装材への活用を想定している。

取組事例：地域材を活用した保育所建設
県内のCLTを用いた建築物の建設棟数は、令和5年度末で30棟に増加しました。
七ヶ宿町では県産CLTを活用した木の温もりが感じられる保育所が新たに建設され、使用された木材は、町産のスギ材を中心に9割以上が県産材となっています。また、耐力が必要な屋根部材等には県産CLTが使用されています。



CLTを活用して建設された保育園

プロジェクト2 主伐・再造林による資源の循環利用

再造林を推進するため、造林経費への補助や、提案型の低コスト再造林の実践を支援した。

森林経営管理制度の推進に向け、市町村への伴走型支援を拡充し、集積計画の作成支援等を行った。



森林管理の推進に向けた現地調査

取組事例：再造林の推進に向けた取組
新しい技術や手法によって造林経費の低コスト化を推進するため、「チャレンジ！みやぎ500万本造林事業」を実施しています。
令和5年度は、3件の提案があり、規格外大苗の植栽による下刈の省力化や、単木防除の獣害対策を組み合わせた低密度植栽の取組などについて支援しました。



単木防除と低密度植栽による再造林

5つの重点プロジェクト

プロジェクト3 経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保

「みやぎ森林・林業未来創造機構」において経営基盤の強化や就業環境の向上に取り組んだほか、同機構が運営するカレッジにおいて各種研修を実施した。

取組事例：みやぎ森林・林業未来創造カレッジの取組

林業担い手の確保・育成を図るため、「みやぎ森林・林業未来創造カレッジ」では森林・林業の学び初めから就業後のキャリアアップまで体系的な研修を実施しており、令和5年度は、4コース32講座で延べ333人が受講しました。



カレッジ開校式

プロジェクト4 地域・産業間連携による地域資源の活用

東京で開催された各種イベントにおいて森林認証材の普及PRを実施したほか、県産きのこの魅力発信等に向けて、きのこを用いた料理教室の開催等を実施した。

取組事例：森林認証の普及PR・新規取得に向けた支援

持続可能な林業経営を後押しするため、県産の森林認証材について、東京で開催されたMOCTION等の各種イベントでPRするとともに、森林認証の新規取得に向けた意見交換会を実施し、森林認証制度の普及・取組の拡大を図りました。



森林認証を受けた森林

プロジェクト5 海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

みやぎグリーンコーストプロジェクトの取組として、海岸防災林の重要性・役割の普及啓発に取り組んだほか、「みやぎ海岸林みんなの森林づくり活動」協定団体への技術指導など、県民参加型の海岸防災林管理活動を推進した。

取組事例：海岸防災林の重要性・役割の普及啓発

震災の教訓伝承と交流人口の拡大を図るため、海岸防災林の保育作業体験含むバスツアーのほか、県内外の大学生有志を募り、にぎわいづくりに向けたアイデアコンテスト等を行いました。海岸防災林が人々に親しまれ、若い世代に将来にわたって活動してもらえるよう、今後も取組を継続していきます。



バスツアーの開催